

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

リンゴ販売懇談会で
集荷目標など報告
(青森県本部)

2面

JAグループ物流会社
連絡会を設立
(JAグループ物流会社)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



リンゴ販売懇談会で集荷目標など報告

4年ぶりに開催、全国の取引会社や県・JA代表らと意識統一

青森県本部



頑張ろう三唱をする出席者



あいさつをする雪田会長

青森県本部は8月22日、弘前市で「2023年度りんご販売懇談会」を4年ぶりに開催しました。23年産は系統集荷765万箱（1箱20^キ、前年産比28万箱増）、販売計画は1250万箱（1箱10^キ、前年産比15万箱増）に設定しました。

販売懇談会には全国の取引会社や県関係者、JA代表者ら約230人が出席し、計画達成に向けて意識統一を図りました。

重点取り組み事項として、生産面では高品質安定生産に向けた栽培管理の徹

底と高密植わい化栽培などの省力栽培の導入による生産基盤の維持を挙げました。販売面では、品種構成の変化と労働力不足に対応

した集荷・選果体制を構築し、業務加工需要への対応強化と輸出の維持拡大に努

め、共販の拡大、生産農家の所得向上に取り組みむこととしました。

県本部運営委員会の雪田徹会長は「本県のリンゴを取り巻く環境は、生産基盤の脆弱化や物価高騰による消費の停滞、2024年問題など早急な対応が必要になってきている」と課題共有を求めるとともに、「消費地と産地が一体となって施策を進め、有利販売と組合員所得の向上に取り組み」と意気込みました。



JAグループ物流会社連絡会を設立

全国19社が参加、全農物流埼玉倉庫で第1回開催

JAグループ物流会社



全国のJAグループ物流会社の代表者が一堂に会した物流会社連絡会

JAグループ物流会社は、物流会社間のさらなる親和・交流や、物流情勢・JAグループの動向などの共有を目的に、このほど「JAグループ物流会社連絡会」を設立しました。

7月に開催した第1回連絡会では、グループ物流会社の北海道・山形・栃木・群馬・東京・山梨・石川・岐阜・愛知・三重・和歌山・愛媛・高知・佐賀・熊本・宮崎・鹿児島（長野・福井は欠席）の代表者が一堂に会し、連絡会の設立の合意、参加各社の紹介、施設視察などを行いました。

以上に維持・発展させていくために、悩みも夢も語り合いつながり進めていけたらと思う。これから皆さんとともに知恵を出しながら、有意義な会に育てていきたい」と連絡会設立への思いを語りました。

連絡会発起人である全農物流株の寺田純一代表取締役社長は、「JAグループの先輩方が協同組合運動で得てきた運送事業をこれまで

物流業界は2024年問題をはじめとするさまざまな課題に直面しています。今後毎年1度開催する連絡会を通して会社間の連携や知見を深め、参加各社とJAグループの発展に寄与できるよう努めていきます。



今年3月に完成した全農物流埼玉新倉庫の視察も実施された



いわて純情野菜 大田市場でトップセールス

知事、五連会長ら出荷本番の夏野菜をアピール

岩手県本部



大田市場で行われた「いわて純情野菜」のトップセールス

も申し分ない状態出荷できる。いわて純情野菜のご愛顧をよろしくお願ひします」と呼びかけました。

本格出荷シーズンを迎える「いわて純情野菜」の販売拡大とブランドの発信を目的に実施。「純情産地いわて応援団長」のお笑い芸人・天津木村さんが司会を担当し、会場を盛り上げました。
達増知事は「豊かな自然と、昼夜の寒暖差も大きい恵まれた気候の下、生産者の方々が精魂込めて育てた岩手のおいしい野菜を、多くの方に食べてもらいたい」とアピール。伊藤会長は「今年は天候にも恵まれ、野菜の生育も順調。品質も物量

岩手県本部は7月22日、東京都の大田市場で「いわて純情野菜トップセールス」を実施しました。達増拓也県知事、伊藤清孝JA岩手県五連会長をはじめ、県やJAいわてグループの関係者らが参加しました。



「日本全国ごはんのお供めぐり」を公開

全国の自慢のお米にぴったりの逸品 4部門に大集合

米穀部

全国各地のごはんのお供を4部門に分けて紹介



JA全農米穀部公式
ツイッター（現X）はこちら



「ごはんのお供めぐり」では、全国各地のごはんのお供を「一度は味わっておきたい部門」「頑張った自分へのご褒美部門」「お酒のつまみになる部門」「常備おかずとしてストックしたい部門」の4部門に分けて紹介しています。さらに、料理研究家・管理栄養士のエダジュンさんによる、ごはんのお供を使ったアレンジレシピ47メニューを公式ツイッターで公開しました。
暑い日でもお代わりしたくなる「ごはんのお供」をぜひご覧ください。

全農は8月18日の「お米の日」に、全国の自慢のお米とごはんのお供をまとめた「日本全国ごはんのお供めぐり」（以下、「ごはんのお供めぐり」）をJA全農米穀部公式ツイッター（現X）で公開しました。



「全農みんなの子ども料理教室」を開催

全農グループ各社の食材を使って楽しく料理

広報・調査部



子どもたちと一緒に作った料理

レシピはこちら



この教室は障がいのある子どもたちを対象に、料理教室を通じて人とのふれあいや料理を作ることに楽しさ、おいしさ、食べることの大切さなどを伝え、自立支援につなげ、国産農畜産物に対する理解を深めてもらうことを目的としていました。全農グループ各社の食材も提供しました。
小学2年生から高校3年生まで計18人が参加。料理の先生や施設の先生と共に野菜を切る、卵を割る、フライパンで具材を炒めるなどの作業を真剣かつ楽しんで取り組んでいました。体験後、子どもたちは「みんなで一緒に作れて楽しかった」「おいしい」などと笑顔で話していました。

全農は8月4日、「社会福祉法人新宿あした会 障害児等タイムケア サービスまいペース」で行われた料理教室に協賛しました。今回の「全農みんなの子ども料理教室」は4年ぶりの開催となりました。

山梨県肉畜鶏卵共進会(肉牛の部)を開催

金賞に原廣一さん(JA梨北)出品の黒毛和種

山梨県本部



金賞を受賞した肉牛と(左から)梶原会長と生産者の原さん(同3人目)

共進会は品質の優れた肉畜・鶏卵を生産し、畜産に対する一般の方の理解を深め消費拡大を図り、畜産農家の経営意欲を高め安定した畜産経営の推進と県の畜産振興に寄与することが目的です。

梶原会長は、日頃の謝辞を述べ「甲州牛と甲州ワインビーフの消費拡大運動やPR活動を実施する中で、ブランド力の強化に努めていきたい」とあいさつしました。

今年和牛・交雑種合わせて58頭の出品があり、厳正な審査の結果、JA梨北管内の原廣一さんの出品した黒毛和種が金賞(山梨県知事賞等)を受賞しました。

山梨県本部が事務局となり、梶原一明県本部長が会長を務める山梨県肉畜鶏卵共進会実行委員会は、7月27日、山梨食肉流通センターで第51回山梨県肉畜鶏卵共進会(肉牛の部)を開催しました。

「食と農の体験教室」でダイコンを調理

だいこんおろしアートの作品作りにも挑戦

岐阜県本部



親子で作った「だいこんおろしアート」

教室は「ひるがの高原だいこん」の魅力を知ってもらうとともに、作品作りを通じてダイコンの消費拡大を促すことが目的。葉や皮まで使う大根めしや、ポリ袋で簡単に作れる防災食などを調理した後、「だいこんおろしアート」作品の形作りのつと色付けのアイデアを紹介すると、参加者は思い思いの作品を完成させました。

またダイコンの収穫は最も水分を蓄える深夜から行われることや、おいしいダイコンの見分け方を説明すると、参加者は熱心に聞き入っていました。

最後に「ひるがの高原だいこん」や「飛騨ほうれんそう」などをプレゼントし、家庭での県産青果物の活用を呼び掛けました。

岐阜県本部と岐阜新聞社は8月6日、本巣市の敷島産業(株)で「食と農の体験教室」を開催し、32人の親子らが参加しました。

第14回雄町サミットを開催

岡山県産「雄町」100%の日本酒が大集結

岡山県本部



懇親会で乾杯をする関係者と参加者

雄町サミットのHPはこちら

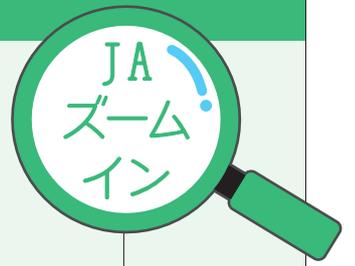


しさを主体に評価し、45点を優等賞に選出しました。

サミットは、岡山県が全国生産量の約95%を占める特産酒米「雄町」と「雄町」で醸した日本酒のPRを目的に開いています。全国37都道府県121歳から206歳の日本酒が集まり、来場者約850人が「雄町」の日本酒を味わいました。

国税庁の鑑定企画官や台湾で活動する日本酒学講師ら11人の専門家が206点の出品酒の「雄町らしさ」を主に評価し、45点を優等賞に選出しました。

岡山県本部と岡山県酒造好適米協議会は8月1日、東京都文京区のホテル椿山荘東京で「第14回雄町サミット」を開催しました。県産「雄町」を100%使用した日本酒が一堂に集まり、利き酒会や飲評会審査・講評、一般の方も参加できる懇親会を実施しました。



生産部会198組織の活性化へ

活動を数値化、情報共有も強化

J A おおいたは、大分県内を事業エリア（3 J A 除

研修会で部会の健康診断について意見を交わす J A 担当者ら



く）とする県域 J A です。

大分県は、瀬戸内海・豊

後水道に面しており、くじゅうの山々や緑豊かな森林により育まれた豊富な水資源など、さまざまな天然資源に恵まれています。気候は温暖で、起伏に富んだ地形により適度な寒暖の差もあることから、それぞれの地域の自然環境のもとで生産される農畜産物は絶品で県民だけでなく、県外、海外からも人気です。

「健康診断」もとに将来ビジョン策定へ

J A おおいたには品目別・地域別に生産部会が198組織あり、4430人が加入しています。J A グループ大分と県などでつ

くる大分県農業総合戦略会議は、2021年10月に農業システム再生に向けた行動宣言をまとめ、園芸振興などと並行して J A の営農指導強化に取り組んでいます。

その一環で、22年度に県内31のモデル部会で、活動実態を数値化する「健康診断」を実施しました。「過去3年に新技術を導入したか」「Web農業簿記を使っているか」など27の診断項目を J A 担当者が5段階で評価し、課題を洗い出しました。診断は年に1回行い、採点結果を基に部会員や普及指導員、市町村の担当者を変えて将来ビジョンを策定し、改善に取り組んでいます。

JAおおいた(大分県)



LINEグループ登録を呼びかけるチラシ(2次元コードはダミーです)



部会にLINEグループ 営農指導員と連携強化

部会員間や営農指導員との情報共有を強化するために22年10月からLINE WORKSの外部トール連携機能を利用して、部会ごとに176個のLINEグループを開設しました。

概要	2023年3月31日現在
正組合員数	5万2295人
准組合員数	5万1197人
職員数	1860人
販売品取扱高	350億円
購買品取扱高	200億円
貯金残高	5750億円
長期共済保有高	1兆7646億円
主な農畜産物	カボス、ピーマン、高糖度カンショ、白ネギ・小ネギ、イチゴ、ニラ、トマト、ハウスミカン、梨、ブドウ、スイートピー、輪菊、豊後牛、米

J A から発信する主な情報は、市況、気象情報や台風対策、部会活動予定などです。これまでは、J A 担当者が部会員へ電話やファクス、選果場での掲示で周知していましたが、LINEを活用することで、本人に直接、確実に届けることができるようになりました。9月末までに1500人以上の登録を目指して部会員に登録を呼びかけています。

これからも、自然豊かな大分県農業の魅力を高めるため、収量と品質向上を目指して生産者への営農指導の充実と研さんに励み、地域社会の活性化に貢献する農業の充実に取り組みます。



インタビュー 佐川友彦さん
(ファームサイド株式会社)



つちだ りゅうのすけ
土田龍之介さん

石川県金沢市出身で、高校卒業後は東京農業大学へ進学。卒業後は北海道の農業法人で実習生として2年半働き、地元石川へ帰省するがその後、がんが発覚。手術を終え、2015年から現在の(有)安井ファームへ入社するが、2度目のがんが発覚。2度のがんを乗り越え、職場復帰後は希望した広報担当として安井ファームのSNSの運営を行い、ブロccoliのレシピなどを日々発信している。

2019年12月 毎日農業記録賞 一般部門 優良賞受賞

2022年 2月 「日本一バズる農家の健康ブロccoliレシピ」(株)KADOKAWA 発売

2022年12月 毎日農業記録賞 一般部門 優秀賞受賞

※安井ファーム…北陸最大級の複合経営を行う農業法人。特にブロccoliは水稻の裏作や近隣市町の水田の期間借地により規模を拡大し、栽培面積ベースで石川県産ブロccoliの約3割のシェアを占める。

農家の当たり前は消費者の当たり前ではない 求められている情報が何なのか ヒントは意外と身近にある

インタビュー企画「発信」する農業者」の第3回は、インタビューのファームサイド株式会社の佐川友彦さんが、日本一バズる農家として7万人以上のフォロワーを抱える石川県の(有)安井ファームの「中の人」、土田龍之介さんにお話を伺います。

病でできなくなった農作業
会社のために見つけた
「できること」は広報業務

佐川友彦さん 早速ですが普段、広報担当者としてどのような業務をされているのでしょうか？

土田龍之介さん 広報担当者といっても実は肩書としては「選果営業部 広報課」という位置付けで1日の大半は農産物の選別・出荷作業を行っているんです。今はその中のスキマ時間を見つけて広報担当としてSNSで情報発信を行っています。

佐川さん 選別・出荷作業で体を使って、広報業務では頭を使うとなるとかなり疲れませんか？

土田さん 選別・出荷作業中も投稿のネタを見つけられたりするので、意



有限会社安井ファーム
@yasuifarm
ブロccoliを主力とする農業法人 | 令和元年度 農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞 | 栽培面積ベースで石川県産ブロccoliの約3割をシェア | Global G.A.P. 認証取得 | 著書「日本一バズる農家の健康ブロccoliレシピ」 | 11月26日は #いいブロccoliの日 | 画像の無断転載はご遠慮ください
白 農場 石川県白山市七郎町 @yasuifarm.net 誕生日: 5月1日
2019年1月からTwitterを利用しています
4,510 フォロワー 7.7万 フォロワー

公式ツイッター(現X)のフォロワーは7万人以上

外と両立しながらできています。他にもテレビや映画、ネット上の質問共有サイトにもネタが転がっていたりします。

佐川さん 普段の生活や現場での業務を広報活動にもうまく生かされているんですね。元々、情報発信に関心を持ってらっしゃったんですか？

土田さん そうですね。安井ファームに就職する前から情報発信は農業に必要不可欠であると考えていて、将来的に自分自身も「発信」できる農業者になりたいと思っていました。就職後、がんを患い農作業ができなくなった時に、「自分が会社のためにできること」

を探した際の答えが私の場合は、情報発信で、それが広報担当者になったきっかけですね。

佐川さん 元々目指されていた道とは少し違ったかもしれませんが、土田さんにしかできない発信が今の人気を確立しているんですね。ちなみに社長は土田さんが行われている発信についてどんな考えをお持ちですか？

土田さん いい距離感で見守ってくれていますね。それもSNSを始める前に社長とSNSに関するガイドラインを定めておいたことが良かったなど。

佐川さん ガイドラインの中身はどんなものだったんですか？

土田さん 「政治」「宗教」「差別」「スポーツ」「セクシャル」(いわゆる5S)については投稿しない、フォローは原則公式アカウントに限る、転載は行わないなど基本的なことですが、双方で確認

作業を行ったことがその後のスムーズな運営につながったと感じています。

人気爆発のきっかけは読者が求める「農家の当たり前」の徹底研究

佐川さん 広報活動をされている中で壁にぶつかった経験はありますか？

土田さん ちょうどSNSを運用し始めてから1年経った頃に、投稿するネタが全く見つからないスランプに陥りまして：その頃、市場を定年退職された方が職場に來られて、スランプについて相談すると「農家の当たり前は、消費者の当たり前じゃない。それを発信すればいいんじゃない？」という言葉ももらい、それが日々の選別・出荷作業中に自分の「当たり前」をもう一度考え直すきっかけになりました。さらに図書館にこもって新聞を読みあさり、農業や農家はどのように切り取られて、世間からはどんな情報が必要とされているのかを自分なりに洗い出し投稿に生かすと、どんどん反応が増えていきました。

佐川さん 受け取る側を知るといのは発信する上で欠かせない視点ですね。「農家の当たり前」については、多くの農業者の方が既に発信していたり、今後発信したいと考えていると



レシピ本「日本一バズる農家の健康プロッコリーレシピ」

思いますが、土田さんが「当たり前」を多くの消費者に効果的に伝えるために工夫していることって何かありますか？

土田さん そうですね。投稿は努めてポジティブにすること、内容も例えばプロッコリーの価格が暴落した際に「買ってください」などと押し付けるのではなく「現在プロッコリーチャンスタイムですー」とあくまで提案にとどめるというのには常に意識していますかね。
佐川さん すてきですーきつとその爽やかさが多くのフォロワーをひきつけているんですね。

若い世代が新しい感性や手法で情報発信していくことを後押ししたい

佐川さん 土田さんの今後の目標を

教えてください！

土田さん 農家の情報発信は非常に重要でこれからも続けていくべきものだと考えていますが、それと同時に「発信の方法は今も多様化し続けていて、これからの時代をつくるのは私たちではなく、今の若い世代だ」という思いも強く持っています。だからこそ、今自分にできることは、自分自身の経験を広く伝え、農業者の意識を変える発信を行うことで若い世代が自由に新しいことに挑戦できる環境をつくることかなと思っていますね。

佐川さん 土田さんのご経験や知見を広めていくことが多くの発信したくてもできない方の刺激でありヒントになるのではないかと思います。土田さんにしか話せないお話を本日はたくさん伺いできました。ありがとうございました。



選果作業の合間を縫って情報発信



ユーモアあふれる投稿が人気

スマート農業 WEB研修会(新規)を開催中

JAの営農指導員やTAC対象に10月まで受け付け

全農は、今年度からJA全中や農研機構とも連携してJAの営農指導員やTAC(担い手に向向担当)がスマート農業に関する基礎知識を習得できるようWEB研修を実施しています。スマート農業技術をコーディネートし、生産者に提案できる人材の育成を目指します。【耕種総合対策部】

研修は2部構成で、いずれもYouTubeの動画配信(限定公開)となっており、1月末まで受講生の都合の良い

時間に何度でも視聴できるようにしています。

「基礎編」は農林水産省・農研機構から講師を招き、スマート農業の取り組み背景や国の施策、経営上の効果などの基礎知識が習得できる講義となっています。「ケーススタディ編」は水稲作を例に営農管理システム「Z-GIS」、栽培管理支援システム「ザルビオ」、自動給水機、ドローン、自動操舵、収量コンバインといったスマー

ト農業技術の使用方法や活用メリットについての講義となっています。

研修会の開催期間・問い合わせ先

開催期間(動画視聴可能期間)

2023年7月3日~2024年1月31日

申込期間

2023年4月17日~10月31日
(期間を延長しました)

参加費用

2000円(税抜き、1人当たり)

問い合わせ先

全農 耕種総合対策部
スマート農業推進課(岡本、網中)
TEL 03-6271-8274
✉ z_k_smart@zenoh.or.jp

※申し込み方法など詳細についてはこちらにお問い合わせください。

「農協ウイナー・農協ロースハム」9月18日から発売

初の畜肉加工品の農協シリーズ化 こだわりの国産豚肉を使用

全農とJA全農ミートフーズ(株)は、80年余りの歴史がある高崎ハムの伝統製法とこだわりの豚肉を使用した農協ウイナーと農協ロースハムの2商品を開発しました。豚肉本来のうまみを引き出し、「おいしさ」を追求しました。

【営業開発部・JA全農ミートフーズ(株)】

原料の豚肉は、JAグループの契約生産者が育てた豚で、仕上げ期に麦類を配合した指定飼料を給餌しており、肉質はさ

っぱりしながらも、深い味わいが特長です。

ウイナーは、でんぷんなどの結着材料を使用せずに仕上げることで、豚肉本来のおいしさ・ジューシーさを感じることができます。また、両商品共に食肉加工品に最も合うとされる山桜のチップでスモークすることで、香り豊かに仕上げました。

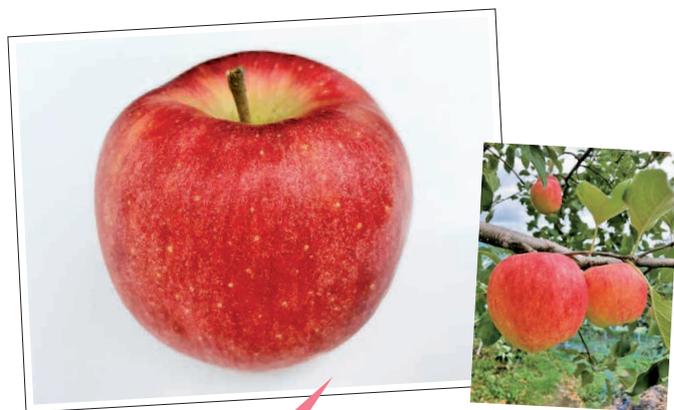
今後も、魅力的な国産農畜産物の訴求と販売拡大に取り組んでいきます。



全農長野 僕らはおいしい応援団

「シナドルチェ」は、「ゴールドデリシャス」と「千秋」を掛け合わせて作られた長野県オリジナル品種のリンゴです。早生種「サンつがる」と中生種「秋映」をつなぐ品種で9月半ばに収穫されます。

「シナドルチェ」は香りが良く、果実はしっかりとした硬さがあります。食味はジューシーで甘味と爽やかな酸味とのバランスが抜群。リンゴらしい甘酸っぱさと、パリッとシャキシャキした食感を楽しむことができます。



JAグリーン長野 シナドルチェ 約5kg(14-18玉)
……4300円(税込み) 9月15~30日ごろ発送

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ✉ shop@ja-town1.com

